

9月22日、農林畜産食品部は、「アフリカ豚コレラに対する防疫総力戦」と題する報道資料を発出したところ概要以下のとおり。

<http://www.mafra.go.kr/mafra/293/subview.do?enc=Zm5jdDF8QE8JTJGYmJzJTJGWFmc mElMkY20CUyRjMyMTM5MSUyRmFydGNsVmIldy5kbyUzRg%3D%3D>

【見出し】

明日(9月23日)は全国一斉消毒の日

【小見出し】

アフリカ豚コレラに備えた防疫総力戦

【本文】

農林畜産食品部(長官:キム・ヒョンス、以下「農食品部」)は全国が台風の影響圏から脱し、雨が止むと予想される明日(9.23)を「一斉消毒の日」に指定し全国すべての養豚場を対象に強力な消毒を実施する。

アフリカ豚コレラの最後の発生(9月17日、漣川)後、5日間の追加発生はなかったが、依然として潜伏期間(最大19日)中で、風雨により農場周辺の生石灰が洗い流されれば、消毒の効果が低下するため全国的に徹底した消毒が必要である。

(全国一斉消毒の日運営)台風が通過した明日(9月23日)を「全国一斉消毒の日」に指定して、防疫脆弱要素のいたるところについて大々的な消毒を実施する。

地方自治体、農畜協(共同防除団を含む)はもちろん、軍除毒車両、地域の農業経営者も参加し、該当地域の養豚場や主要道路などの消毒のために使用可能な消毒資源を総動員する計画である。

地方自治体、農協などが保有する共同防除団540台、広域防除機16台と軍除毒車両32台、防疫車両421台など可能な装備1,024台を総動員し、重点管理地域、発生農場周辺の10km以内と密集飼育地域など防疫脆弱要素のいたるところで大々的な消毒を実施する予定である。

これまで、農食品部は、京畿坡州にアフリカ豚コレラが初めて発生した後、3,492台の消毒車両・装備を動員して17,783か所の農場・施設に対する消毒を実施した。

特に、雨がやんで集中的に消毒を支援するために地方自治体が保有している生石灰を迅速に配布して、農協の保有分のうち32,033袋(640トン)を明日までに緊急供給する。

(生石灰遮断ベルト)農食品部は発生農場がある坡州、漣川を含めて6つの市郡を重点管理地域に指定して、これまで他地域への豚搬出禁止、疾病治療目的の他には豚と直接接触する人力の出入りを制限するなど、強力な防疫措置を適用している。

台風以降も当該地域の防疫管理が拡散遮断の成否を左右するだろうと見て重点管理地域には農場周辺と進入路などに生石灰 17,900 袋 (358 トン) を十分に散布する生石灰防疫遮断ベルトを構築するようにした。

(農場内外消毒) 農家では週末の間、雨のため畜舎内部だけを消毒したが、雨がやんだ後は従来使っていた消毒液を入れ替え、畜舎内外を一斉消毒する計画である。

特に強風を伴った台風が過ぎ去ったことから農場出入り口、物品倉庫など農場内外の整理と掃除を終えた後、農家が独自に保有している消毒装備を活用して畜舎と施設、装備、車両などについて集中的に消毒する予定である。

一方、韓豚協会は文字メッセージ、SNS などを通じて農家の積極的な消毒参加を促し、消毒模範事例及び消毒要領などを伝え、全国の地域畜協職員も現場で台風による被害農場の緊急復旧と消毒の実施を支援する計画である。

(地域担当官の派遣) 農食品部は、職員で構成された地域担当官を全国に派遣し、現場の防疫脆弱要素を確認し、消毒作業がきちんに行われているかどうか点検する計画である。農食品部のキム・ヒョンス長官は「3 週間がアフリカ豚コレラの拡散の峠であり、分水嶺になるだろう」と強調し、「畜産家には防疫措置を最初から始めるという認識で農場に出入りしようとする車両と人の出入りを徹底して統制する一方、緊張の紐を緩めず、消毒要領に従って毎日畜舎内外を消毒するよう訴えた。

また地方自治体には管内の拠点消毒施設と統制警戒所など防疫関連施設の運営がきちんに行われるよう点検に万全を期すことを再度強調した。

(以上)